

掛川市教育委員会定例会議事録

会議名	平成28年11月掛川市教育委員会定例会		
場所	掛川市役所南館 教育委員会室		
開催日時	平成28年11月28日（月） 午前10時30分から午前11時50分まで		
出席者	教育長 教育長職務代理者 委員 委員 委員	山田文子 小野恵美子 永田孝明 松浦昌巳 岩尾千佳子	教育部長 こども希望部長 学務課長 学校教育課長 社会教育課長 図書館長 教育政策室教育政策係長 教育政策室指導主事 教育政策室主査
			笹本 厚 高川佳都夫 中山弘一 佐藤嘉晃 栗田一吉 奥野寿夫 鈴木純一 柴田勝明 呉羽原和

1 協議事項

平成29年度掛川市教育委員会指定研究について (資料 1)

2 報告事項

- (1) 掛川市公立学校評議員の報告について (資料 1)
- (2) 掛川市内小中学校のあらわれについて (資料 2)
- (3) 平成28年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員会からの報告提言について (資料 3)
- (4) 平成29年掛川市成人式実施要項について (資料 4)
- (5) 指定管理者の選定結果について (資料 5)
- (6) 社会体育施設使用料減免基準改定について (資料 6)
- (7) かけがわ図書館フェスティバル2016開催状況について (資料 7)
- (8) 掛川市立中央図書館ラウンジでの軽食販売について (資料 8)
- (9) 教育委員会11月補正予算（案）について (資料 9)

1 開 会

教育長：教育委員会11月定例会を開会する。

2 教育委員会10月定例会議事録の承認について

意見はなく、承認された。

3 事務報告及び行事予定報告

教育部長から事務報告及び行事予定報告について、主な事項の説明があった。

4 協議事項

平成29年度掛川市教育委員会指定研究について

学校教育課長から協議資料1のとおり説明があった。

委員：2つの中学校区における小中一貫教育について、最初の取り組みは、どのようなところからスタートするのか。

学校教育課長：小中学校と地域との連携をはじめ、中1ギャップが一貫教育によって本当に減少していくのかということ等もある。小中学校それぞれの単位で地域と連携しているが、一貫校にするに当たって、小学校単位で地域連携していたものを広めていった場合に、成果としてどう出てくるのかという点も研究していけたらと思う。「掛川道徳」という掛川ならではの道徳教育があり、地域の人材を活かしてどんなことができるのかということもある。原野谷中学校区、城東中学校区は、それぞれの実態が異なるため、地域の方々に御理解いただきながら、小中一体型を理想としていけたらいいと考えている。地域からも、10人以下の学級で勉強することが果たしていいのか、という声が出ているので、そういう意見も踏まえて、連携教育でどれだけの成果が得られるかということも取り組みとしていく。学校、地域の実態があるので、そこを尊重したいと思う。

委員：学校区に委ね、教育委員会は、指針を出さないということになるのか。

学校教育課長：指針としては、教育大綱があるので、一貫教育に向けてのアプローチの方法については、ある程度学校に委ねることになる。世間で注目されている中1ギャップもそうだが、英語等では教科専門性が高いので、系統的に中学校へどう繋げるかという問題もあり、カリキュラムにも関わるため、検証していく必要がある。全国的な話題となる部分については、教育委員会として方向性を提示していくが、細かい地域連携等の部分については学校に委ねたい。

委員：あまり手取り足取りではなく、ある程度自由に、各地域に合わせながらやっていくことが必要である。

委員：教科担任制については、どのように考えるか。

学校教育課長：栄川中学校区の研究において、教職員の兼務連携についてなかなか続かないというのは、学校の多忙化等があり、ある程度できたとしても限界がある。できる教科も理科、英語の先生をなるべく兼務で小学校へ派遣するということであり、様々な教科を全てというのは無理である。そういう点が課題となるのであれば、どんな一貫校をつくるのかという行政側の課題にも繋がっていく。

委員：今回の指定地区は、統廃合が取りざたされた地区でもあるので、保護者も地域も敏感に反応すると思うが、統廃合の結論は、小中一貫ということに決定するのか。

教育長：決定するつもりはない。第2ステージ検討委員会で話し合いを進めている段階なので、まだ検討していく事項だが、一貫教育を強めていくことは大事なことであるので進めていきたい。そのために一体校がよいかどうか、というのは今後の話になっていく。地域性や規模も各中学校区全て違うので、どういう学校がよいかについては、地域とよく話し合っていくことになる。

学校教育課長：教員の兼務については、最初に栄川中学校区で実施した時に、一部で市の裁量の中で職員を兼務としたが、これをどう拡大していくかについては、状況による。原野谷中学校区と城東中学校区では、区内の学校数が違い、例えば中学校の理科、英語の教員は限られているので負担は大きく、どの程度できるかはわからない。県の方も、こういう指定にするから教員を1名増という配置ができるわけではないので、市単で教員を付けなければならないという課題も出てくる。今は定数の中で進めていくが、そういった課題が出てきた時に、平成29年度末人事では、こんなことをやりたいからということで県費で教員を増やすといったこともあるが、時間がかかることなので、じっくり検討して進めていく。

委員：2中学校区が研究区となって3年間で実施するとなると、他の7中学校区では、研究の成果を見た上で進めることになるのか。

学校教育課長：どこまでできるかということもあり、県の方でもどれだけ教員を配置できるかの問題もあるので、やってみないとわからない部分はある。市としては、校舎の老朽化の問題もあるので、同時に検討していかなければならない。2年間の予算であるが、3年から4年で考えていく。

委員：この2中学校区では、校舎の耐用年数はどうなっているのか。

学務課長：原野谷中学校区では、原野谷中が中学校で一番古く、昭和36年に鉄筋コンクリートで建てている。原田小は、昭和55年築で、平成25年度に耐震補強及び大規模改造工事を行っている。原谷小は、昭和46年築で、昭和60年度に耐震補強を行っているが、かなり年数も経過したため老朽化し、増築校舎は、平成5年に建てているので、こちらは良い状態で保全されている。城東中学校区では、城東中が昭和49年築で、増築校舎を除けば老朽化している。佐東小は、昭和56年築で問題ない状態である。土方小は、昭和38年築で、外から見てもかなり老朽化している。中小は、昭和54年築で、平成12年築の増築校舎を除けば老朽化が進んでいる。

委員：教育委員会以外の開発担当部署等から、これから宅地が増える見込みの所や、人口、世帯が増える可能性のある地区というのは、データが来るのか。事前に見込みがわかれば、子どもの人数推移が見込めると思うが、教育委員会には結果だけが来るのか。

学務課長：社会教育課が土地利用委員会のメンバーに入っているので、情報としてはある。

教育長：まずはカリキュラムや教育計画等について丁寧に研究を進め、これからの学校がどうあったらいいのかを地域と同時進行で話し合いをしていく。学校教育課がカリキュラムの中心となるが、教育委員会全体で地域と関わっていきたいと考えている。

その他意見はなく、承認された。

5 報告事項

(1) 掛川市公立学校評議員の報告について

学校教育課長から報告資料1のとおり報告があった。

(2) 掛川市内小中学校のあらわれについて

学校教育課長から報告資料2及び次のとおり報告があった。

10月の交通事故は、小中学校共に1件であった。両方とも自転車と車との接触事故であり、大きな怪我はなかったが、学校には注意喚起を促している。非行等問題は、小学校25件、中学校21件で昨年度より増加しているが、特に小学校では小さな事項でも報告を促しており、些細な喧嘩でも生徒間暴力に入れるようにして、早期発見、早期対応に繋げている。不登校については、小学校14人、中学校71人で、当市だけでなく、県全体的に増えている。10月期は様々な行事があり、学校としては学校へ出てきてもらういいチャンスであるが、警戒もしたのかもしれない。長期化すると抜けられなくなるので、早めにみどり教室等へ行ってもらうようにしていく。いじめの問題では、小学校4件、中学校3件で、冷やかしく、からかい、悪口といったことが小中合わせて6件、その他、軽くぶつかったり、遊ぶふりをして叩く等があったが、いずれも早期に対応している。

委員：コの字型の席で授業をしている東中は、不登校が一番少ないと聞いたが、他の学校では取り組んでいるのか。

学校教育課長：1つの方法として進めており、確かに成果は上がっているが、コミュニケーションを取りやすい状況を生んでいるという検証はできているものの、不登校の解消に繋がっているかという正直検証はできていない。不登校生が完全にいないかといえばそうではなく、様々な対応をしている。席の型については、教室の大きさ等や各学校のやり方も異なるので、コの字型の紹介はするが、実際に取り入れてやれるかどうかは課題である。多様な学習形態と言っているが、最初からコの字型ありきではやりにくい面もあり、良い所を上手く活かせるとよい。

(3) 平成28年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員会からの報告提言について
学校教育課長から報告資料3のとおり報告があった。

(4) 平成29年掛川市成人式実施要項について
社会教育課長から報告資料4のとおり報告があった。

(5) 指定管理者の選定結果について
社会教育課長から報告資料5及び次のとおり報告があった。

体協とミズノの組合わせは、既にし〜すぼで実施しているが、今回新たに鹿島建物が加わっているのが特徴的である。鹿島建物は、これまでもさんりーなに受委託の関係で入り施設管理を行っていたが、これから施設の傷みも激しくなり長寿命化を考えていく中で、何かあってからでなく先手を打っていくという部分で指定管理者に入ってもらい、維持管理も含めて発言をしてもらうという意図がある。指定期間の10年間は、議会運営委員会でも、長くはないか、との意見があったが、10年とした理由として、1つは、設備投資を積極的に行いたいということがある。例えば節電照明に設備投資をして年間経費を削減した場合でも、5年経って元を取れるため、これから利益を出そうという時に交替では厳しいということがある。また、体協としては、ソフト面として人を育成していく必要があり、それには5年では難しいということがもう1つ大きい理由としてある。指定管理料については、2,300万円増えているが、これは消費税が10%になることを見込んで2%分が追加されたものである。指定管理者選定においては、

1 社しか申出はなかったが、これだけは必要という基準は、十分クリアしている。

(6) 社会体育施設使用料減免基準改定について

社会教育課長から報告資料6及び次のとおり報告があった。

これまで、学校の部活関係で使用する場合は、減免対象としていたが、昨年度、文化施設の利用について学校の利用であっても受益者負担とすることになったのと同様、学校負担とすることとした。

(7) かけがわ図書館フェスティバル2016開催状況について

図書館長から報告資料7のとおり報告があった。

(8) 掛川市立中央図書館ラウンジでの軽食販売について

図書館長から報告資料8のとおり報告があった。

(9) 教育委員会11月補正予算（案）について

教育政策室教育政策係長から報告資料9のとおり報告があった。

6 その他

(1) 次回以降教育委員会定例会の日程等について

ア 教育委員会12月定例会

平成28年12月19日（月）

大東学校給食センター 正午～ 給食試食
午後1時～ 定例会

イ 教育委員会1月定例会

平成29年1月27日（金）午前10時

掛川市役所南館 教育委員会室

(2) その他の予定について

倉真小学校訪問 12月1日（木） 松浦委員

7 開 会

教育長：教育委員会11月定例会を閉会する。